

想いは世界に



竹内 邦昭 (写真部)

は な や ま

公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電 話 (022) 261-7055
F A X (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 早坂 貞彦

昭和 40 年 1 月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和 39 年 5 月 9 日に宮城県花山村（現栗原市花山）の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。

二〇一四年の新春を迎えました。今年には宮城県芸術協会創立 50 周年のめでたい年です。

当協会は、それぞれ異なる芸術分野の集まりであり、在野という立場で半世紀、郷土の芸術

振興のため、互いに奉仕し続けてきた全国どこにもない団体です。私達はこのことを大いに誇りとし、先人に感謝し 50 周年を共にお祝い致します。

昨春公益法人となり、当協会に新しい風が吹いております。

芸協 50 周年の前段として、昨年の第 50 回芸術祭では県民対象の公募展などを開催、芸術祭全体の入場者数を増やしました。秋の韓国との交流では、多大な義援金への御礼を込め、当協会として初の試みである六部門のコラボによる「希望の灯火」を、

芸協 50 周年の春



=年頭のあいさつ=
理事長 早坂 貞彦

大邱と仙台で公演致しました。この公演では、会員内からの盛り上がりとそれを支える聴衆のエネルギーが見事でした。

これらは、芸協創設の精神や公益法人化の趣旨に沿ったものであり、50 周年記念行事についても、これらを踏まえた意義ある事業とすべく、現在鋭意検討を重ねているところでもあります。

これからも、奉仕する芸協という原点を大事にしながら、協会の若返りを念願にした会員拡大や会費外収入による事業拡充等、時代に即した諸変革の検討が必要ではないかと思えます。

今年、会員の皆様には、50 周年記念事業に積極的にご参加下さり、他部門の仲間と芸術交流を深め、芸術性豊かで健やかな一年となりますよう祈ります。

第50回を記念し多彩に展開

宮城県芸術祭閉幕

平成二十五年九月二十日に開幕した第50回宮城県芸術祭は十一月二十一日、ホテルメトロポリタン仙台で閉会式を行った。

宮城県芸術祭会長の早坂貞彦、芸術協会理事長の挨拶で、第一



早坂理事長から記念品を受ける地域文化功労者表彰の小野恬参事

第50回宮城県芸術祭入場者数

事業名	入場者数
開会式	63
書道展	3,403
工芸展	1,419
絵画展	6,595
絵画展（公募の部）	3,300
第50回記念特別企画美術展	2,678
写真展・写真公募展	2,985
華道展	2,709
彫刻展・彫刻公募展	2,678
文学散歩	37
茶会	4,027
長唄演奏会	223
音楽会	793
文芸祭	67
絵画・書道展松島展	650
工芸展大和展	379
写真展大和展	379
閉会式	264

参加行事

事業名	入場者数
第57回仙台三曲協会定期演奏会	419
第44回洋舞公演	880

引き続き第二部は、芸術祭名誉会長の村井嘉浩宮城県知事の挨拶（代読）でスタート。各部門を越えて交流が深まり、華やかで有益な祝宴であった。

多くの来場者があり、県民に開かれた芸術祭は盛会裏に終わった。

茶会は過去最高の賑わい

第50回芸術祭茶会は、仙台市青葉区北山にある輪王寺の茶室を会場として、三回にわたり開催された。

当協会茶道部の十三流派が十月十三日、二十日、二十七日の日程に分かれ、市民を対象に開催された。



来客で賑わう茶席

オーケストラとの饗演が奏功

音楽会もほぼ満席

第50回芸術祭音楽会は十月三十一日、仙台市青葉区の日立システムズホール仙台で開かれた。プログラムは冒頭に三月の第33回ピアノコンクールで特別賞を受賞した伊東大輝君が演奏を披露。続いて第一部オペラの調べ、第二部アンサンブルの響き、第三部協奏曲の魅力、の三部立てによる演奏が行われた。

今回は第50回を記念し、洋楽

席を設けて抹茶と煎茶を点てた。雨の日もあったが、外国人客も含めて入場者は四千人を超え、過去最高となった。

部の渡部勝彦部長指揮による芸術祭オーケストラとの饗宴が行われたこともあり、八百席がほぼ満席となった。

長唄演奏会は仙台市民会館で

第50回芸術祭長唄演奏会は、十月二十日、仙台市民会館小ホールで開かれた。今回は司会者による曲目の解説があり、大変好評であった。来場者は

二百二十三人。

本年度独立の邦楽

三曲定期演奏会に出演

第50回芸術祭参加行事の第57回仙台三曲協会定期演奏会が十月十三日仙台市民会館大ホールで開かれ、本年度音楽部から独立した邦楽部に在籍する会員が出演した。琴・三弦・尺八による演奏が行われ、演目は古典的名曲で知られる六段の調べ等十七曲が披露された。

参加行事の洋舞公演も

第50回芸術祭参加行事で、宮城県洋舞団体連合会主催の第44回洋舞公演が十一月七日、東京エレクトロンホール宮城で行われた。県内バレエスタジオ・研究所の合同発表会で、観衆はベテランの前衛的な洋舞やジュニアの若々しい発表に楽しいひと時を過ごした。

【訂正】はなやま198号第五面の「鮮やかに生きた日下先生」の記事中、「新協美術会」は「新芸術協会」、「新協の宮城支部」は「新芸の東北支部」、「宮城新協支部展」は「新芸東北支部展」の誤りでした。

地域文化功労者文科大臣表彰 小野恬参事(鑑)が受賞

文化庁の平成25年度地域文化功労者表彰は、十一月十一日に東京・霞が関の文部科学省で表彰式が行われ、当協会の小野恬参事が受賞された。

地域文化功労者表彰は、全国各地域で芸術文化の振興、文化財の保護などに功績のあった個人、団体を対象に、文部科学大臣が表彰するもので、25年度は芸術文化の分野55件、文化財保護分野で38件が受賞した。

小野参事は「永年にわたり、日本画家として優れた作品を発表するとともに、公益社団法人宮城県芸術協会の要職を務め、地域の芸術文化の発展に貢献している」ことが評価された。

小野参事は仙台市出身で、河北美術展、院展などで多数受賞。1972年には第一回宮城県芸術選奨を受けている。

文化の日表彰 芸協から5氏

宮城県の平成25年度文化の日表彰式が十一月十一日、東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館)で行われた。当協会からは、教育文化功労の分野で次の五氏が選ばれ、村井嘉浩宮城県知事から表彰を受けた(敬称略)。

芸術祭閉会式

功績者24人を表彰

芸術祭の閉会式では、次のとおり華道部八人、洋楽部二人、邦楽部三人、茶道部十一人の計二十四人の会員が功績者表彰を受けた(敬称略)。

写真部など三部門で復興支援

当協会では、東日本大震災から三年目となる本年度も、第50回芸術祭を大震災復興支援事業として実施するとともに、書道部、写真部、彫刻部、文芸部がそれぞれ昨年に引き続き部門独自の復興支援活動を行った。

書道部は、昨年度からの継続



渡辺善夫七ヶ浜町長に義援金を渡す写真部の佐々木執行理事と笹川部長

「華道部」佐々木竹芳(池坊) 千葉一聰(清泉古流) 榎森青悦、後藤秋峯、後藤田道映(草月流) 朴澤一堂(本原遠州流) 田中一俊(本原松栄流) 津田洋秋(龍生派) 「洋楽部」小原世、斎藤みどり 「邦楽部」稀音家六味遊、稀音家六哲遊、杵家弥登通(長唄) 「茶道部」金ヶ崎宗伸、佐々木宗啓(裏千家) 児玉宗良(江戸千家) 千葉松陽、古川玲香(三彩流) 田所宗智、堀江宗竹(宗偏流) 鹿野南榮、島山南紫、鷲尾南葉(織田流) 松本静翠(文雅静庵流)

原田夏子会員が講演

II 芸術祭文芸祭II

第50回芸術祭の文芸祭が十月二十六日、東京エレクトロンホール宮城で開かれた。

第一部では文芸賞受賞者による受賞作品の朗読・感懐が個性豊かに披露された。

第二部は原田夏子会員(短歌)による「無常の世に生きている―東日本大震災被災地のうた―」と題した講演が行われた。原田会員は、大震災を詠った台湾歌壇や合同歌集『東日本大震災の歌』など多数の震災短歌を取り上げ、作品傾向を細かく分析。来場者は熱心に聴き入っていた。

一回目の芸術祭実行委開催

十二月六日、本年度二回目となる芸術祭実行委員会が開かれた。議題は第50回芸術祭の実績報告と反省。執行部から第50回を記念した芸術祭は、趣向を凝らして実施した部門もあり、総じて好評で来場者も例年より多かったことなどが報告された。また各実行委員からは、特に絵画特別企画美術展や工芸部と華道部のコラボ展などは大変好評であった、公募展も順調で三部門ともに会員発掘にも貢献している、などの意見が出された。

第50回宮城県芸術祭受賞者(会員)

	部 門	作 品 名	氏 名	
宮城県芸術祭賞	書 道 部	すみよしの【かな】	佐々木 香 苑 (石巻市)	
	工 芸 部	舟型盛箆「結」【木竹芸】	林 惠美子 (七ヶ浜町)	
	絵画部(日本画)	私 の 机	河野 尚 枝 (仙台市)	
	絵画部(洋画)	<small>守りタノ物ハ在ルケレド武器ノ使フ方ガ解リマセシ。ダガ覺エリツモリハ在リマセシ。</small>	高松 和 樹 (仙台市)	
	彫 刻 部	顔 2 0 1 3	板持 彰 (仙台市)	
	写 真 部	時 化 模 様	昆野 三津男 (気仙沼市)	
宮城県知事賞	文 芸 部	弁 え る 【川柳】	大沼 和 子 (仙台市)	
	書 道 部	秋江送別戴友諒の為に賦す【漢字】	渡辺 楊 麗 (仙台市)	
	工 芸 部	袖着物“峠の春”【染織】	安倍 まゆみ (仙台市)	
	絵画部(日本画)	みちたりた日々	阿部 淑 子 (塩竈市)	
	絵画部(洋画)	u n - t i t l e	本 田 崇 (大河原町)	
	彫 刻 部	放 射 能 沈 澱	早坂 修 (大崎市)	
	写 真 部	願 い	渡辺 義 昭 (仙台市)	
	文 芸 部	雪 原 【詩】	建入 登 美 (仙台市)	
	文 芸 部	節 分 草 【短歌】	橋本 良 子 (石巻市)	
	文 芸 部	黄 水 仙 【俳句】	庄子 紀 子 (仙台市)	
仙台市長賞	文 芸 部	冬 眠 【川柳】	伊藤 我 流 (気仙沼市)	
	書 道 部	巧 偽 拙 誠 【篆刻】	村山 柳 雅 (仙台市)	
	絵画部(日本画)	愛 染	庄子 幸 一 (多賀城市)	
河北新報社賞	絵画部(洋画)	刻	山口 優 子 (名取市)	
	書 道 部	窮 【少字】	尾形 澄 神 (仙台市)	
	工 芸 部	サボテン文組皿【陶芸】	岸上 まみ子 (富谷町)	
	絵画部(日本画)	秋 の こ ろ	梅森 さえ子 (仙台市)	
	絵画部(洋画)	休憩するダンサー	三浦 頼 子 (石巻市)	
	彫 刻 部	M Y R O O M	亀井 陽 逸 (登米市)	
	写 真 部	気 配 と 余 韻	落合 英 俊 (大崎市)	
	文 芸 部	記 憶 の 家 【短歌】	清野 たき子 (仙台市)	
宮城県教育委員会教育長賞	書 道 部	静 寂 の 海 【近代詩文】	千葉 光 曄 (仙台市)	
	工 芸 部	有線七宝蓋物「光彩」【七宝】	佐瀬 たか子 (岩沼市)	
	絵画部(洋画)	ELEMENTS - 混沌・生・故 -	齋藤 正 和 (仙台市)	
宮城県教育委員会教育長新人賞	書 道 部	天 の 香 具 山 【かな】	畠山 秋 玲 (仙台市)	
	書 道 部	カ ル ミ ナ 【墨象】	名川 四 麗 (富谷町)	
	工 芸 部	2013・えん(食籠)【陶芸】	池上 地久子 (仙台市)	
	絵画部(日本画)	掌 の 記 憶	橋本 道 代 (仙台市)	
仙台市教育委員会教育長賞	絵画部(洋画)	静 韻	黒田 賀世子 (仙台市)	
	書 道 部	響 【墨象】	後藤 法 明 (栗原市)	
宮城県議会議長賞	絵画部(洋画)	ベルト駆動自動織機(若柳)	松永 弘 (大和町)	
	書 道 部	秋 郊 閑 望 【漢字】	佐々木 鳳 堂 (大崎市)	
仙台市議会議長賞	絵画部(洋画)	行 く 秋 - 2 0 1 3	小野 由貴子 (仙台市)	
	書 道 部	古風(朱茂調詩)【漢字】	佐々木 芝 翠 (仙台市)	
公益財団法人宮城県文化振興財団賞	絵画部(洋画)	モ オ ~ や め て !	山形 牧 子 (登米市)	
	書 道 部	近 作 二 種 【篆刻】	藤野 秀 一 (多賀城市)	
	書 道 部	「白波の・・・」【かな】	高橋 四 蓮 (仙台市)	
	書 道 部	四月十三日渡瀬陽湖【漢字】	江村 耕 芳 (仙台市)	
	工 芸 部	V e s s e l 【陶芸】	市岡 泰 (利府町)	
	絵画部(洋画)	APPEARANCE in MOSAIC	守田 美代子 (仙台市)	
	写 真 部	い ざ 、 参 る	阿部 信 義 (大崎市)	
公益財団法人カメイ社会教育振興財団賞	文 芸 部	つれづれの歌【短歌】	大友 圓 吉 (多賀城市)	
	絵画部(日本画)	予 感	三浦 孝 (大崎市)	
菅野美術館賞	絵画部(洋画)	クローズ・スタンド	目黒 喜三郎 (岩沼市)	
	彫 刻 部	新 覚	丹野 智 子 (仙台市)	
門伝勝太郎賞	書 道 部	悟 【少字】	佐々木 藤 恵 (塩竈市)	
	絵画部(洋画)	「 記 憶 」	林 しづ子 (仙台市)	
宮城県芸術祭奨励賞	書 道 部	地獄の中の菩薩【近代詩文】	宮崎 礼 子 (仙台市)	
	書 道 部	大宮エリーの詩「言葉のプレバート」より【近代詩文】	下野 美 紀 (塩竈市)	
	書 道 部	李 白 詩 【漢字】	無着 孝 章 (名取市)	
	書 道 部	想 【墨象】	一條 紅 蕭 (涌谷町)	
	書 道 部	突 破 口 【近代詩文】	末永 香 雅 (多賀城市)	
	書 道 部	朱 長 春 詩 【漢字】	館岡 経 香 (秋田市)	
	絵画部(洋画)	静 か な 刻	粟野 わか子 (仙台市)	
	絵画部(洋画)	ひ と と き	珍田 トヨ子 (仙台市)	
	絵画部(洋画)	刻 は め ぐ る	堀井 明 美 (仙台市)	
	写 真 部	郷 秋	小住 正 吾 (大崎市)	
	写 真 部	漁 港 の 朝	紺野 勝 司 (気仙沼市)	
	文 芸 部	青 胡 桃 【俳句】	小倉 協 三 (仙台市)	
	宮地房江賞	工 芸 部	線文象嵌焼締花器【陶芸】	小島 見 美由紀 (岩沼市)

今年は小学校八校で実施 書き初め展に向け大好評

書道部講師派遣事業

書道部は人材育成事業のひとつとして県内の小・中・高校を対象に行っている講師派遣事業を、本年度は八校で実施した。

これは当協会の公益社団法人化に伴う公益目的事業の一環として昨年度から始めたもので、次代を担う児童生徒に向けた書写・書道教育指導の充実に貢献することを目的とした事業である。

また、希望する学校に書道部



大崎市立清滝小学校で指導する千葉華紅会員

十二月から一月にかけて派遣を希望する学校が多く、子どもたちは平成26年度宮城県小中学校書き初め展の課題などに真剣に取り組んだ。

LBギャラリーで作品展

芸術祭絵画展の受賞者

第50回芸術祭の絵画展受賞者

作品展が、一月十日から十九日まで、仙台市青葉区大町のLBギャラリーで開かれた。

作品展には受賞者作品のほか

テーマは「個の展開」

カメイ美術館との共催絵画展

当協会とカメイ美術館の共催による絵画展「個の展開」が、

二月四日から三月十六日まで、仙台市青葉区のカメイ美術館で

開催される。開催期間中、二月十五日午後二時から、出品者

によるギャラリートークがある。また、三月二日午後二時か

らは、初めての企画としてギャラリートークが開かれ、当

協会の洋楽部会員による室内楽が演奏される。

今回の「個の展開」は、二十三年度の「継承する力」、二十

四年度の「自律の様相」に続く第三弾となる。

兵庫県洋画団体

石巻で色紙展

兵庫県洋画団体協議会主催

で、当協会絵画部の十人も出品した色紙展「甦れ東北」が一

月二十三日から二十六日まで石巻のナリサワカルチャーギャラ

リーで開かれた。展示終了後、色紙は被災者を癒しますため、

洋画団体協議会から同市の仮設住宅集会所40カ所に寄贈された。



LBギャラリーの会場風景

第34回ピアノコンクール 本選三月二十一日に

宮城県の小・中学校児童生徒の音楽的資質の向上に寄与するための、当協会主催による第34回音楽コンクール(ピアノ部門)が、本年も仙台市戦災復興記念館で開かれる。

受賞候補作品も加わり、合わせて二十七人による力作が展示された。作品は油彩、水彩、アクリル、和紙、木版など多彩な画材による作品が展示され、独創的な画題も好評を博した。

期間中の入場者数は六八九名と多くの来場者に恵まれた。

ミュージックフェスタは栗原市で 廃校となった校歌を合唱

洋楽部による「みやぎミュージックフェスタ2013 in く

りはら」が二月二日(日)、当協会と栗原市、宮城県文化振興

財団の共催により、栗原文化会館で開催される。

本年度は「歌い継がれた校歌よ永遠に」という副題で、本年

宮城県在住の小・中学生を対象で、二月九日の予選、三月二十一日の本選の審査を経て、各級ごとに最優秀賞、優秀賞、奨励賞、作曲者賞などが贈られる。審査員の推薦を受けた受賞者は、当協会主催の秋の音楽会に出演できる。

申し込みは一月十日締め切られ、参加者は六十八人となった。

度までに閉校となった栗原市内26校の小、中、高校の校歌を洋楽部会員が編曲。これを今回のために特別に編成されるオーケストラと地元の吹奏楽団、そして市民からの応募者で編成される合唱団が演奏するという、地元

に密着した斬新な内容となる。

理事候補者の配分決まる

新定款による初の理事改選

当協会は十二月九日、平成二十五年年度の第四回理事会を開き、二十六年度に新定款のもとで行われる初の役員改選に向け、部門ごとの理事候補者数を決めた。

昭和三十九年五月に誕生した当協会は、今年創立50周年を迎える。昨年、記念行事実施のための実行委員会が設置され現在、理事長、執行理事、各部の部長、副部長などが記念式典部会、記念事業部会、記念誌部会に分かれて着々と準備を進めている。記念式典部会は、会場確保の都合から五月十三日(火)にホ

らは四名までとされている。部門ごとの候補者数は、芸協の総正会員数に対する各部門の正会員数の比率をもとに配分された。本年度との比較では、茶道部が増、絵画、文芸、工芸、洋楽の各部が一減となる。

また、新たに年齢制限も導入。法人運営規程で理事候補者は選出年度当初で七十五歳未満でなければならぬ、とされている。

各部門ごとの理事候補者数は次のとおり。

書道部、絵画部、茶道部各三、文芸部二、華道部、写真部、工芸部、洋楽部、邦楽部、彫刻部各一、舞踊部、演劇部各ゼロ。

準備着々―創立50周年記念行事―

テルメトロポリタン仙台で記念式典と祝賀会を開催することとし、現在式典の内容を検討中である。

記念事業部会は、十月四日(土)・五日(日)にせんだいメディアテーク一階で、十一月一日(土)に東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館)でそれぞれ記念事業を展開するこ



能島和明名誉会員(日本画) 河北文化賞を受賞

当協会の能島和明名誉会員(日本画)が「多年にわたり東北日本画壇の発展向上に寄与した」として、第63回(2013年度)河北文化賞を受賞した。受賞式は一月十七日に仙台市青葉区の仙台国際ホテルで行われ、河北文化事業団などから賞牌や副賞が贈られた。能島氏は東京都生まれだが、一歳から高校卒業までを

築館町(現栗原市)で過ごした。多摩美大時代から河北美術展河北賞、日展特選各2回、日展文科大臣賞などの受賞を重ね、2013年には黒川能を題材にした「鐘巻」で日本芸術院賞に輝いた。

父の故康明氏も1997年度の河北文化賞を受賞した日本画家で、親子二代の受賞者となった。

六十年来の畏友、大塚青雲さんが逝った。

温和、質朴、それでいて洒々落落。舞台裏でヒソソリしているようで、大きな存在感を持った人であった。

その大塚さんと真逆の軽石のような私は、大塚さんの掌の上でノホンとあぐらをかいて、書の世界を涉ってきた。

困った時にはいつの間にか側について黙って手を貸してくれる人であった。

スピーチにおける絶妙な間。巧まざるユーモア。酔いが回ってくると目をつむって、餅を両手で引つ張るような独特な手拍子。両手で天井を押し上げるような、有名な大塚式万歳。どれを取っても、そこには大塚さん



大塚青雲名誉会員を悼む

名誉会員 山崎 晁秋

とししており、来年十一月に実施予定の大塚との交流事業もこれに組み込む方向で検討を進めている。

記念誌部会は十月末までに「芸協50周年史」を刊行することを決め、年度内には各部に執筆を依頼することになった。

ならではの味があった。「私はなかなか変われないから」。師池田耕雲譲りの、謹直な漢隷を学び、一貫して隸書作品を発表。遂には「隸書の大塚」と自他ともに許す存在となつて、県書壇に確固たる地位を築き上げた。金冬心、伊墨卿、木簡等を巧みに取り入れ、いつの間にか大塚さん独自の「粹」な書風を作り上げていた。

文化功労者として、地域文化功労者文部科学大臣表彰、県文化の日表彰、県芸術選奨等数々の榮譽を受けられた。充実した書人生であったと思う。

病を得てからは、書の集まりにはピットリと出て来なくなつたが、その潔さも私には悲しい。書くことがあり過ぎて、かえって何も書けない。もう百頁紙数があつたらと思う。 合掌

研修旅行アンコールワットの旅 炎暑に石の記憶を

邦楽部 宮澤 寒山



出発の十一月二十五日、空港で見送りに見えた早坂理事長は「大いに遊びなさい。芸の肥やしになりますから」と挨拶。一行十三名を乗せたアジアナ機は仁川に寄り、目的地のシェムリアップまで九時間二十分の

幅二百二十メートルの堀が一・五キロ四方に巡らされている。石の建造物は傷みが激しい。当時の王は仏教に帰依していたため、ヒンズー教徒によって破壊された。午後からは近くのアンコールワットを見学。十二世紀初め、

行程。今回の旅の特徴は三日間、同じホテル。ゆつたり旅だ。翌朝、夏服に脱皮。半ズボン姿で表に出る。南国の空の下は気温三〇度近くで蒸し暑い。まずはアンコールトムに

ヒンズー教の寺として建造。見上げる高さは六十五メートル。町の建造物はすべてこれより低くする規則になっている。下から見上げる塔は迫力満点。五〇度超の勾配は手摺りがあってもかなりキツイ。汗が目に入る。下を見

ないようにして一段ずつよじ登る。挑戦した仲間も四名だけ。ホテルで一眠りして、夕日鑑賞に出る。プレループは小ぶりの寺院ながら、大きな石段だ。この上も観光客が多いが、赤い夕日は憎いほど二人のシルエツトを浮き上がらせる。

夕食時に伝統舞踏のアップサラダンスを鑑賞。民族衣装に身を包み、指先をしなやかに曲げて踊る。ラマヤナー影絵と共に十年前、世界遺産に登録された。

三日目、早朝五時に出発。アンコールワットから昇る朝日がお目当て。暗い道を懐中電灯で足元を照らし進む。すでに蓮のある池の周りには人がびっしりと並んでいる。日の出前から次第に明るくなり始め、アンコールの遺跡がシルエツトに姿を浮かび上がらせる。

朝食後、東洋のモナリザと呼ばれる石彫が有名なバンデアイスレイを見る。この彫刻はすべて女性の手による。細かい細工が特徴で、これも世界遺産だ。午後から古代寺院タ・プロームへ出発。巨木の根に崩され、傾きながらもしっかりと支えられており、巨木に支配された遺跡である。

ベン・メアリ遺跡は昔の王の墓所。この遺跡は見事なまでに朽ち果て、苔むした石が山になり石の墓場の様相。王様の石棺も無造作に放り出されている。

この破壊の原因は木だけではなく、三十三年前に無知なポル・ポトが金のために石彫を無残に剥がし、遺棄したため。シムリアップのアンコール博物館は明るい建物の中に、九〇十五年に栄えたクメール文化を展示。国外から国宝の多くが無傷で返却され、フランスとタイからの返還が待たれるという。

石の次は水を見ようと、トンレイサップ湖に出かけた。雨季の終わりで、この時期は湖が琵琶湖の十倍という東南アジア最大の湖。船に乗り、水上に浮かぶ家並みが見学できた。警察や学校、教会もあり、ここだけで二千人が浮き草生活。湖全体では二万人が生活しているという。

今回の旅も楽しい研修と交流をすることが出来た。佐々木光一団

長ははじめ、ご同行の皆さんに感謝である。

帰国の日、宮城県内の気温は氷点下を記録。三〇度の温度差。家の暖房の部屋で、河北新報の夕刊を見て目が釘付けになった。大石芳野氏の「レンズが捉えた現場」の連載の最初に、ポル・ポト派による二百万人虐殺の惨劇が生々しく掲載されていて、人間の業の虚しさを石の記憶と共に思い知らされた。



四面に観世音菩薩像が彫られた塔がそびえ立つアンコールトム遺跡

事務局日誌

会務報告

☆ 第 50 回宮城県芸術祭実行委員会

○ 第 50 回宮城県芸術祭実績報告

○ 各部署からの報告

○ 平成 26 年度予算編成

○ 理事候補の配分について

○ 理事部長会議

○ 理事の改選について

☆ 第 6 回中国国際学術研究会・交流展

☆ 宮城県美術館「県民ギャラリー」

☆ 第 11 回震災復興支援桃源書展

☆ 仙台市市民会館

☆ 平成 25 年度(第 35 回) 大伴家持のつどひ短歌大会

☆ 東北歴史博物館

☆ 第 12 回夢楽描き展

☆ 仙台市市民会館

☆ 第 22 回河北工芸展

☆ 小野裕美ピアノリサイタル

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 日立システムズホール仙台

☆ 宮城県復興記念館

☆ 仙台市戦災復興記念館

☆ 第 38 回教育書道研究会 学生部書道展

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 第 12 月 5 日

☆ 第 6 回河北新報小・中学生紙上書道展

☆ 河北新報朝刊紙上

☆ 歌曲のたのしみ三塚典子ソプラノリサイタル

☆ 日立システムズホール仙台

☆ 第 37 回一般社団法人二科会写真展

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

☆ 仙台市市民会館

◇ 第 38 回新芸術展

◇ (洋画) 努力賞 菊地禮蔵

◇ (洋画) 佳作賞 中鉢徳子

◇ (洋画) 東北支部長推挙 飯野哲雄

◇ 員推挙 中鉢徳子

◇ 第 45 回日展入選

◇ (日本画) 天笠慶子 (洋画) 佐藤幸子

◇ (水無瀬川 吉田利弘 (工芸) 水無瀬川 大川京子

◇ 第 29 回河北写真展

◇ (東北) 東北の食・特選 河北賞 清野光夫

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

◇ (東北) 東北の食・特選 三塚典子

けやきの譜

遅まきながら、新春のごあいさつを申し上げます。さて、今年には午年。馬のように疾駆して、とききたいところだが、昨年後半から新年にかけての内外の情勢が芸術文化の分野にも影響を及ぼして、何か落ち着かない感じだ。▼2020年の東京五輪・パラリンピックの誘致成功は朗報だったが、立役者の猪瀬前東京都知事が金銭トラブルから辞職。五輪の準備は、2月9日に決まる新知事の下で進められることになった。年末には安倍総理が靖国神社に参拝。修復の方向にあるとみられていた中韓両国の猛反発を招き、文化交流にも悪影響を及ぼす事態に▼芸協にとつて、昨年は公益社団法人への移行初年度であったが、移行は極めてスムーズに運んだ。50回目の芸術祭も、絵画・彫刻・写真の公募展が軌道に乗って来たことも含めて、成功に終わった▼今年は芸協創立50周年。記念行事、記念誌発行などが予定されているが、内外情勢のもやもやを吹き飛ばすためにも、充実を期したい。越年した鈴木裕子さんの事件解決も。(恂)

故鈴木裕子主任の後任となる職員について、十二月二十日付け河北新報朝刊などに求人広告を掲載したところ、八十六名の応募があった。今後、二月中旬までに書類選考、小論文・面接試験を行い、三月一日からの採用を予定している。

職員の採用
故鈴木裕子主任の後任となる職員について、十二月二十日付け河北新報朝刊などに求人広告を掲載したところ、八十六名の応募があった。今後、二月中旬までに書類選考、小論文・面接試験を行い、三月一日からの採用を予定している。

職員の採用
故鈴木裕子主任の後任となる職員について、十二月二十日付け河北新報朝刊などに求人広告を掲載したところ、八十六名の応募があった。今後、二月中旬までに書類選考、小論文・面接試験を行い、三月一日からの採用を予定している。

職員の採用
故鈴木裕子主任の後任となる職員について、十二月二十日付け河北新報朝刊などに求人広告を掲載したところ、八十六名の応募があった。今後、二月中旬までに書類選考、小論文・面接試験を行い、三月一日からの採用を予定している。

職員の採用
故鈴木裕子主任の後任となる職員について、十二月二十日付け河北新報朝刊などに求人広告を掲載したところ、八十六名の応募があった。今後、二月中旬までに書類選考、小論文・面接試験を行い、三月一日からの採用を予定している。